

沖縄出身パイロット養成

崇城大、日本トランス航空協定

崇城大と日本トランスオーシャン航空（那覇市）は6日、パイロット不足を背景に、同社が地元根差した人材を確保するため、沖縄出身のパイロットを連携して養成する協定を結んだ。

同社は、那覇を拠点に周辺の久米島、石垣



パイロットを連携して養成する協定を結んだ崇城大の中山峰男学長（右）と日本トランスオーシャン航空の青木紀将社長＝6日、熊本市西区

島、宮古島のほか、福岡や大阪などを結ぶ12

路線を運航している。協定では、同社が沖縄出身の20代の学生2人を選抜。崇城大は菊陽町の空港キャンパスで受け入れ、来年2月

から約2年間訓練して資格取得を目指す。同社は現在、訓練費用の支援方法を検討中。

この日、崇城大で協定を交わした同社の青木紀将社長は「経営課題に共に取り組んでもらえて、うれしく思う」と語った。

崇城大は昨年10月にも、琉球エアークommunicuterと同様の協定を結んでいる。

（丸山宗一郎）